

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「はじめての視力検査」



就学時健診での出来事です。視力検査会場で、一人の男の子（Mさん）が「やらない！」と声を上げました。Mさんは自閉スペクトラム症（ASD）の診断を受けており、初めての場所、人、活動に慣れるまで時間がかかります。しかも、視力検査は、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの検査と同じように、鼻から細長い棒を入れられて辛い思いをするのではと考えているため、不安でいっぱいです。検査員が集まり相談をした結果、そのまま帰宅してもよいと、保護者とMさんに伝え、「おしまい」と声を掛けました。Mさんは安堵の表情を見せて、お母さんと帰ろうとしましたが、視力検査が気になって戻ってきました。

約5分くらい、検査会場の様子を覗いて、中に入ろうとしては戻る行動を繰り返しました。やがて、会場に検査対象の子どもたちがいなくなり、Mさんが一人になりました。その時でした。ずっと見えない相手と闘っていたMさんを温かなまなざしで見ていたお母さんが、そっと手を握ると、一緒に会場に向かって歩き出しました。

Mさんはみんなと同じやり方で検査をすることはできませんでしたが、黒い『遮眼鏡子』を左右の目に当てて、ランドルト環『C』の切れ目の部分を指さして、「ま



る」と答えました。終わった後、その場にいた検査員にほめられ、「やったぞ！」と言わんばかりの弾ける笑顔を見せました。小さなMさんが、大きな一歩を踏み出した瞬間でした。

### Mさんが視力検査を行うことができた理由

- ①お母さんがランドルト環『C』を使って家で密かに練習をしていた。（リハーサル 見通し）
- ②Mさんが自分の目で視力検査は怖くないことを確認できた。（見通し モデル）
- ③お母さんが「できるよ、大丈夫だよ」と励まし続けた。（心の支えとなる人の存在）
- ④検査員がMさんの実態に合わせて、できる状況づくりを工夫した。（具体的な手立て）
- ⑤Mさん自身が検査の必要性を感じて、勇気を出した。（本人の自覚・意欲）

Mさんは、見えないもの、想定外や未知のことを想像することが苦手なため、初めての場所や活動に不安な気持ちを抱きます。①～⑤までの支援は、新しいことを「始められない」こだわりをもつMさんにとって、不安を軽減するための有効な支援となりました。その他、「変えられない」こだわりには、予定変更が分かった時点で理由を添えて予告する、複数の選択肢を提示して選ばせることが有効です。「やめられない」こだわりには、条件を付けて認める、いつまでできるのか伝える、活用することが有効です。「一番」へのこだわりには、必要以上に巻き込まれない、新しい価値観（シナリオ）を教えることが有効です。

赤ちゃんが初めて離乳食を食べることができるのは、信頼できる大人が近くでおいしそうに笑顔で食べているからです。子どもが初めてのことに挑戦するためには、不安な気持ちになったとき、心の支えとなる人の存在が必要です！



## とれたて直送便



あなたは「

」に何を入れますか？

性格は顔に、生活は体型に、本音は仕草に、感情は声に、センスは服装に、美意識は爪に、清潔感は髪に、落ち着きのなさは足に表れます。

それでは、子どもが変わるときは、まず「

」が変わるでしょうか？